

海域	経過 (4～5月)	現況(6月上旬～ 6月中旬)	見通し (7月～8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>・定地水温:4月～5月は平年並み～やや高めで経過した。</p>	<p>・定地水温は平年並み。 ・6月の津軽暖流の各層水温は表面、50m層、100m層の各層とも平年並み。東方への張り出しは平年並み(太平洋海洋観測結果)。 ・6月の対馬暖流の各層水温は表面でかなり高め、50m層及び100m層で平年並み(日本海海洋観測結果)。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は低めで推移する。</p>	<p>・FRA-ROMSによると、7月は表層を除き、低め基調で推移すると予測されている。 ・津軽暖流の張り出しは平年並みの傾向がみられる</p>	<p>特になし。</p>
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p>【4月】(4/6～4/7) 《表面水温》 10海里以内は2～7℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや低い」、トドヶ埼定線で「平年並」～「低い」、尾埼定線で「平年並」、椿島定線で「やや低い」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は1～7℃台であり、黒埼定線で「平年並」、トドヶ埼定線で「やや低い」～「極めて低い」、尾埼定線及び椿島定線で「平年並」～「やや低い」となった。</p> <p>【5月】(5/10、5/17) 《表面水温》 10海里以内は7～11℃台であり、黒埼定線で「やや高い」～「平年並」、トドヶ埼定線で「やや低い」～「やや高い」、尾埼定線で「平年並」～「やや高い」、椿島定線で「やや低い」～「平年並」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は6～8℃台であり、黒埼定線で「平年並」、トドヶ埼定線で「平年並」～「やや高い」、尾埼定線及び椿島定線で「平年並」となった。</p> <p>※ 天候悪く、4月、5月は10海里内の観測となった。</p>	<p>【6月】(5/30～5/31) 《表面水温》 10海里以内は10～12℃台であり、黒埼定線で「やや低い」～「平年並」、トドヶ埼定線で「やや低い」、尾埼定線で「やや低い」、椿島定線で「低い」～「やや低い」となった。</p> <p>20～50海里は11～13℃台であり、黒埼定線で「平年並」、トドヶ埼定線及び尾埼定線で「やや低い」～「平年並」、椿島定線で「やや低い」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は5～10℃台であり、黒埼定線で「やや低い」～「平年並」、トドヶ埼定線で「やや低い」、尾埼定線で「やや低い」～「平年並」、椿島定線で「平年並」となった。</p> <p>20～50海里は2～7℃台であり、黒埼定線で「やや低い」～「やや高い」、トドヶ埼定線及び尾埼定線で「やや低い」～「平年並」、椿島定線で「低い」～「やや低い」となった。</p>	<p>予測される7月の水温は、100m深、各0海里定点の10m深ともに「平年並」。</p>	<p>農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した、水温経験的予測システムを用いて解析した。</p>	<p>定置網漁業によるスケトウダラの水揚量が792トンで、前年比1,285倍、過去5年比399倍となった。(5月上旬がピーク)</p>
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p>【4月】 親潮の南下による冷水の波及を受け沿岸表層は平年より1～3℃、100mでは1～2℃低め。</p> <p>【5月】 親潮は道東沖まで北退したが、沿岸表層は牡鹿半島周辺で平年より1～3℃、100mでは142° 以東や仙台湾周辺で低め。</p>	<p>【6月】(6/1) 沿岸表層は142° E以東で平年より1～2℃低め、100mでは142° E以東で平年より2～3℃低め。</p>	<p>親潮第一分枝の張り出しは極めて南編で推移し、沿岸表層は4℃高め、100mでは142° 付近で4℃低めとなる見込み。</p>	<p>FRA-ROMSによる。</p>	<p>近年では2005年以来、牡鹿半島を超える親潮の春季南下がみられた。</p>
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水海セ発表)	<p>【4月】 《100m深水温》 県北沿岸は「平年並み」 県中沿岸は「やや高い」 県南沿岸は「やや高い」</p> <p>【5月】 県北沿岸は「平年並み」 県中沿岸は「やや高い」 県南沿岸は「やや高い」</p> <p>※ 県北:37°50'N 県中:37°25'N 県南:37°00'N</p>	<p>【6月】 県北沿岸は「平年並み」 県中沿岸は「平年並み」 県南沿岸は「やや高い」</p>	<p>【7月】 「低い」～「平年並み」</p> <p>【8月】 「平年並み」</p>	<p>FRA-ROMSによると、7月の福島県海域142° 30'以西では100m深水温は平年より0～4℃低いと予測されている。 気象庁の海面水温・海流1ヶ月予報(6月10日発表)によると、7月の本州東方海域の海面水温は「平年並みか平年より高い」と予測されている。 このうち気象庁による予報は海面水温に係るものであるうえ、本州東方を広く評価するものである一方、FRA-ROMSによる予報では本県沿岸海域に100m深で平年より低い海域が確認されることから、FRA-ROMSによる予報を重視し、「低い」～「平年並み」であ</p>	<p>【4月】 月間のソウハチの水揚が56.3トンあった(2000年から2011年までの通常操業の中で最大であった2005年の年間水揚げは11.6トン)。 本県沿岸漁業における重要魚種であるコウナゴについて、3月に実施した試験曳の結</p>

				ると予測する。	果等を受け、例年3~4月にかけて行われるコウナゴ漁の操業自粛が決定され、4年連続で水揚げ0となった。
常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸；茨城水試発表)	<p>【4月】 黒潮からの暖水波及の影響を受け、茨城県沿岸の表層の水温は、0～100m深で「平年並～高め」であった。200m深では冷水域により「やや低め～高め」となった。</p> <p>【5月】 0m深では概ね「やや高め～高め」、50～200m深では「平年並～高め」であった。141° 15'E以西の200m深での水溫は、親潮系冷水の影響を受け、6～10℃となった。</p>	茨城県沖では黒潮が離岸傾向にあることから、暖水波及による本県沿岸域への影響は弱く、茨城県沿岸の表層水溫は18～23℃、100m深水溫は12～16℃台となった。平年差は、0m深で「やや低め～やや高め」、100m深で「平年並～高め」、200m深で「やや低め～やや高め」であった。	本県沖合では黒潮統流は離岸傾向であることから、黒潮の暖水波及による影響が弱く、表層では「平年並」となる見込み。100m深では親潮系冷水の影響を受ける可能性があり、「やや低め～平年並」となる見込み。	FRA-ROMSによる。	

各階級の水溫平年偏差の範圍

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.3℃～	+3.8℃～	+6.1℃～	+5.8℃～	+4.9℃～	+6.1℃～
高い (7.5%)	+2.2～+3.2℃	+2.4～+3.7℃	+3.9～+6.0℃	+3.8～+5.7℃	+3.2～+4.8℃	+4.0～+6.0℃
やや高い (20%)	+0.9～+2.1℃	+1.0～+2.3℃	+1.6～+3.8℃	+1.5～+3.7℃	+1.3～+3.1℃	+1.6～+3.9℃
平年並 (40%)	+0.8～-0.8℃	+0.9～-0.9℃	+1.5～-1.5℃	+1.4～-1.4℃	+1.2～-1.2℃	+1.5～-1.5℃
やや低い (20%)	-0.9～-2.1℃	-1.0～-2.3℃	-1.6～-3.8℃	-1.5～-3.7℃	-1.3～-3.1℃	-1.6～-3.9℃
低い (7.5%)	-2.2～-3.2℃	-2.4～-3.7℃	-3.9～-6.0℃	-3.8～-5.7℃	-3.2～-4.8℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.3℃～	-3.8℃～	-6.1℃～	-5.8℃～	-4.9℃～	-6.1℃～

1991年1月～2020年12月の100m深度の観測水溫を基に階級区分している